

シルバーライン 改修用BL認定手すりユニットの 設計・施工に関する留意点

設計・施工をされる際は以下のことに十分注意して下さい。また、カタログに記載されている納まり、寸法から外れるものは、BL認定品となりませんので、カタログの内容を守って設計・施工をお願いします。

1. 建物用途

BL認定基準で、住宅、共同住宅、宿舍等の住生活のための建物用途に限定されます。
教育施設、官公庁施設、医療、養護施設、その他非住居建物へ取り付けられた場合は、BL認定品となりません。

2. 適応躯体

BL認定基準で、RC、SRCの躯体への取付についてのみ規定されています。
鉄骨、ALC、木へ取り付けられたものは、BL認定品となりません。

3. 手すりへの他部材の取付

BL認定手すりへ補助手すりや物干金物、隔板、防風スクリーン、門扉などの他部材を取り付けた場合は、BL認定品とはなりません。

4. コーナー部、階段、スロープ、屋上根巻手すりは非認定

階段、スロープ、屋上根巻に墜落防止手すりを取り付けた場合は、BL認定品とはなりません。
BL認定基準では、コーナー部、階段、スロープ、屋上根巻きに対しての基準が規定されていません。

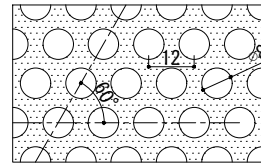
5. 耐風圧強度は、1,950N/m²以下

BL認定基準で、パネルの耐風圧強度は1,950N/m²以下となっています。
風圧が、1,950N/m²を超える場合は、BL認定品となりません。

6. パネル種類

以下の4種類の中からお選び下さい。下記以外のパネル材はBL認定品となりません。

- ALPOLIC/fr 4mmシリーズ 403/fr (t=4.0)
- プラメタル PAシリーズ (t=4.0)
- アルミパネル (t=2.0)
- アルミパンチングパネル (t=2.0)
(丸孔 60° 千鳥 8φ×12P 開口率40%)



5. 合わせガラス (t=6.0以上)

注意事項

- 面材にアルポリック、及び、プラメタルをご使用になる場合は、パネルの1辺を1,000mm以下とするように手すりH、W寸法の調整をお願い致します。
- パンチングパネルの孔径を大きくしたものはBL認定品となりません。
BL認定基準で、子供の指が入ってケガをしない寸法としてφ8が規定されています。

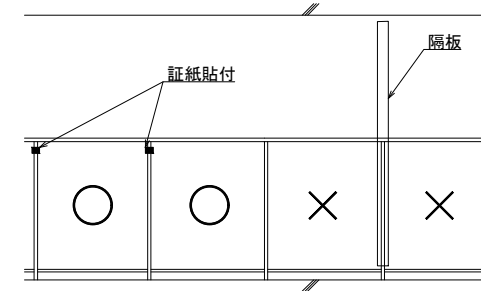
7. 施工

改修用BL認定手すりの施工管理は、一般財団法人ベターリビングに「特定住宅部品取替工事管理者」として登録された人により行わなければなりません。

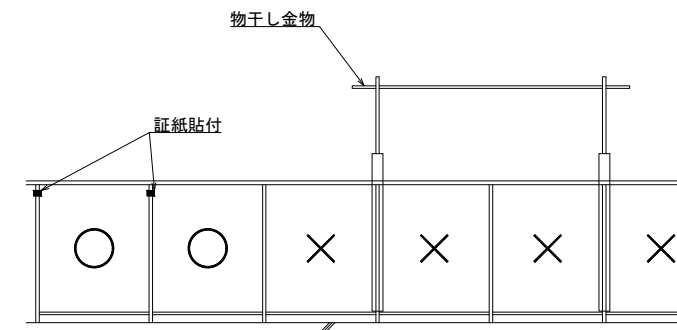
8. BL認定箇所と非認定箇所の表示及び、証紙貼り付け位置について

※BL認定外となる部分は、協議確認のうえ施工図中に範囲を明確に表記する。

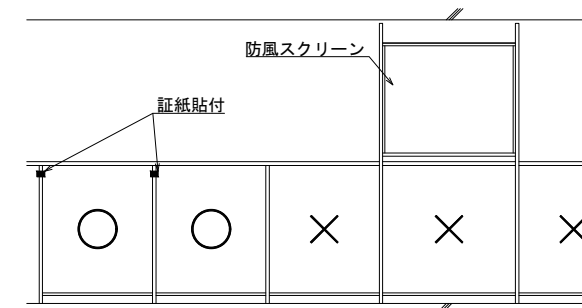
隔板が取り付けられている場合



物干し金物が取り付けられている場合



防風スクリーンが取り付けられている場合



改訂年月日	概要	特記事項

作成	設計	担当	検印	工事名	縮尺	通し番号
					A1 1: A3 1:	
作成年月日	タイプ	図名	改修用BL認定手すりユニット設計・施工留意点 (1)		区分	図面番号
管理番号						00000000_000

9. 改修用BL認定手すりとするために

■躯体の事前調査

躯体の事前調査について全ての項目を実施し、条件が適合しているか確認してください。
建物の躯体が、手すりが取り付けられる状態であるかどうか、事前に調べ、取り付けられない場合は、補修をする必要があります。

躯体の事前調査
①コア抜きの圧縮強度試験
②アンカー引抜強度試験
③シュミットハンマー試験

コンクリートのひび割れ
クラックスケール等で診断を行い、0.5mmを超えるクラックがある場合は、エポキシ樹脂を注入して補修する。

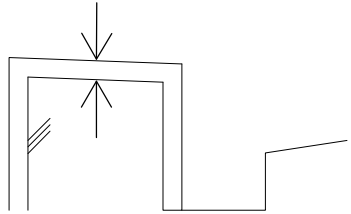
コンクリートの中性化
パラペット部のコア抜きを行い、コアにフェノールフタレイン溶液を塗布し、鉄筋深さまで中性化が進んでいた場合、浸透性アルカリ性付与材の塗布を行う。

鉄筋位置の確認
アンカーと鉄筋が干渉することが無いように、竣工図書もしくは、鉄筋センサー等で鉄筋の位置を確認する。

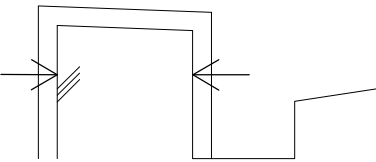
躯体の事前調査

鉄筋腐食の確認
鉄筋が露出している場合は腐食状況を目視で確認し、腐食していれば、サビ落としを行い鉄筋防食用ポリマーセメントなどを塗布し、補修を行う。

天端モルタル厚の確認
アンカー打設面のモルタル厚が40mm以下であることを確認する。
モルタル厚が40mmを超える場合は40mm以下となるようにハツリ等を行う。



躯体幅の確認
アンカー打設部の躯体幅が既定の躯体幅以上であるか確認する。

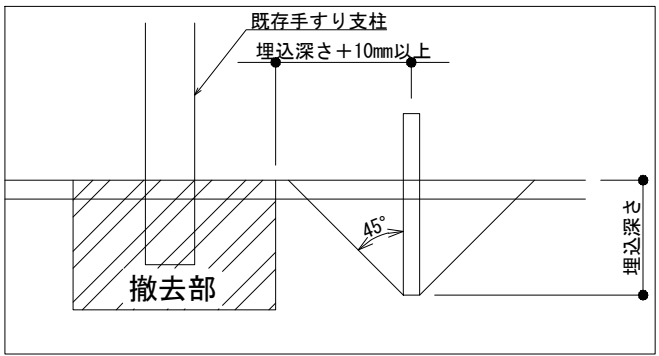


モルタルのひび割れ・剥離の確認
モルタルのひび割れ及び剥離が目視で確認できた場合は補修を行う。

■生産設計(施工図)

コンクリート強度、躯体幅、既存手すりの位置などによって、工法、手すり幅(W)、高さ(H)を検討する必要があります。

既存手すりの埋込部分と、新設アンカーの引き抜き荷重のかかる部分が干渉しないように、新設アンカーの位置を設置してください。

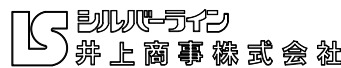


10. 型式について 表記：①K・SL-②③・④

- ①区分 L：150型
- ②支持方式 0：外方立支持方式 P：方立支持方式 W：壁支持方式
- ③意匠タイプ P：パネルタイプ K：タテ格子タイプ
- ④工法 A：後付工法

製図：2018.11.21

改訂年月日	概要	特記事項



作成	設計	担当	検印	工事名	縮尺	通し番号
					A1 1: A3 1:	
作成年月日	タイプ	図名	改修用BL認定手すりユニット設計・施工留意点(2)		区分	図面番号

管理番号 00000000_000